



from NEW YORK from NEW YORK from NEW YORK
マッシー川口の
 from NEW YORK from NEW YORK from NEW YORK

from New York

ゴア副大統領は
 大のサイバー好き!!の巻

ハロー！こんにちは。このビジネな季節いかがお過ごしでしょうか？
 私は今ワシントンDCの取材から帰ってきたところ。今日のマンハッタンはピーカンだけど気温は低く、「耳あて」しても寒くて耳が痛いよ～。

ところで、ワシントンポスト紙によると、アメリカのゴア副大統領は大の「サイバーガイ」らしい。旅行中でも黒いスーツケースの中にはIBMのThink Pad 560X 166MHzのPentiumを忍ばせているそうで、リムジンの中でも、スピーチを行う直前の待合い室でも、いつでもどこでも安全な電話回線さえあればメールチェックをかかさないので、内輪で「e-mail addict (Eメール党)」なんて呼ばれているんだって。@@

ゴア副大統領といえば「情報スーパーハイウェイ」のアメリカハイテク実施大改革運動で知られており、あと2～3年ですべての公立の小学校をインターネットでつなぐという計画の途中なんだけど、あれもこれもご本人の日常生活から発信したもだったんですネ！誰かの受け売りではなく、本人の意志からだったと知って嬉しい気がするワ。素朴な質問だけど、橋本首相はパソコンをお使いなのだろうか？！

ゴア副大統領のプライベートなメールボックスには、ホワイトハウスのスタッフや友人関係、ご家族、その他から一日100～150通のメールが到着。必要なものには即座に返事を書くそうデス。それ以外にパブリックからのご意見メールも400以上くるといふ (vice.president@whitehouse.gov)。こちらは担当官が読み、重要なものはゴア氏に転送する。ホワイトハウスでも、彼は常に到着するメールボックスに注意してパソコンを片目でチェックするそう。というも彼は「Netiquette」を大事にしている、重要なメールには必ず24時間以内にリターンするのをモットーにしているらしい。彼のスタッフ内では、E-mailが一番のコミュニケーションであり、特にタイトなスケジュールの副大統領自身と連絡を取り合いたいときには、メールが真っ先に捕まえられる方法だという。また、若いジュニアのスタッフ、これまでは何人もの上司を過ぎなければできなかった質問も、メールだと直接自由に聞けるようになり関係が活発になったというのもなんとアメリカらしいよね。また、部下に頼みごとをするときも、いままでの電話だと部下の手を「副大統領様からの電話です」で止めさせることになるけど、メールは部下自身が何が



Now On Air!!

リアルオーディオをインストールしてLet's GO!!
 Masshy From NY Radio <http://home.impress.co.jp/magazine/inetmag/nyradio/>

カワグチ マサヨ

ニューヨーク在住のフリージャーナリスト。テレビやラジオでニューヨークからのレポートを送っている。他にコナミの人気ゲーム「ときめきメモリアル」の片桐彩子役(声優)としても活躍。今年の朝日新聞デジタル広告賞特別審査員。



大事なのかプライオリティーを自分で選択でき、ボスからの電話に振り回されることもなくなったというの。

最近のインタビューでは記者達にオフィスのコンピューターの前でそんな話をしながらデモンストレーションをしたよね。元マックの大ファンだった彼も現在は特別注文のコンパックのパソコンで、17インチモニターは画面を分割して、テレビにも使えるようにセットしてあり(だいたいいつもCNN)。ビデオ会議用のカメラ機材も見せ、モニタースピーカーからトレーシー・チャンプマンのボーカルのサンプリングを流しながら、自分のお薦めのWWWツアーを紹介して、サイバー好きをアピールしたそうです。

ホワイトハウスのホームページをスクリーンに出したかと思うと、いきなりMapQuestという彼の子供たちが道を間違えたとき用のとおきサイトまで見せたというゴアさん。娘さんのカレンナさんが婚約したときも、Eメールで皆にお知らせしたそうよ。いりりババなんですネ。そんな彼もまったくメールが通じない相手がいるんだって。それは

彼のボスのクリントン大統領なのでした！現在、ゴアさんは大統領に対してインターネットユーザーになる第一歩をお勧めしているところ。クリントン大統領の愛娘、チェルシーさんがスタンフォード大学に入学したので「娘さんとのメール交換は楽しいぞ～」と横からツツツして、クリントン大統領もインターネットライフを始めるところらしいわヨ。^^；

ゴア氏は一体どこからサイバーテクを学んでいるかといえば、シリコンバレーのハイテクリーダーたち。ネットスケープを作ったひとり、26才のマーク・アンドリーセンなど、24人の「サイバゲル」と定期的にピザとビールで語り合う「Gore Tech (ゴアテック)」と呼ぶグループを作って、

積極的に新しい技術やビジョンを取り入れているというのだから、さすが～としかいようがないわね。アメリカでは彼のひと言でパソコン状況がガラリと変わったりするので、彼の未来派リーダーシップに期待したいナ！！

じゃ今日はこの辺でね。
 See you next month. Ciao!! マッシーより。
 Happy Holiday from New York!!!

- 日本語でのゴア副大統領の紹介 <http://www2.yomiuri.co.jp/osaka/int/int1118.htm>
- ゴア副大統領のページ http://www.whitehouse.gov/WH/EOP/OVP/html/GORE_Home.html
- メディアザウルスの講演記録 <http://www.hotwired.com/wired/1.4/features/mediasaurus.html>

illustrator : Satoko Kido





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp